

やなぎみわ マイ・グランドマザーズ

主催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／朝日新聞社
協賛 株式会社資生堂／凸版印刷株式会社
協力 一色事務所
会期 2009年3月7日(土)～5月10日(日) 57日間
会場 東京都写真美術館 2階展示室



**この歯？ 去年ベガスで大当たりした記念品。
とにかく彼はひっきりなしのジョークで笑わせてくれる。
奴が言うには、私の大笑いは幸運の女神のホホエミだそうな。**

展覧会概要

東京都写真美術館では、日本を代表する作家の作品表現を積極的にご紹介しております。今回は「やなぎみわ マイ・グランドマザーズ」展を開催し、第53回ヴェネツィア・ヴィエンナーレ（2009年6月～11月）日本館での展示が決定した作家の魅力に迫ります。

やなぎみわは、京都市立芸術大学大学院美術研究科修了後、1993年に京都で初個展を開催し、「エレベーター・ガール」で鮮烈なデビューを飾りました。以後、寓話で語り継がれてきた女性像や、現代社会における個々人の問題意識に焦点を当てる作品を制作し続けています。「少女地獄極楽老女」展（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2004年）、「無垢な老女と無慈悲な少女の信じられない物語」展（原美術館、2005年）、ニューヨーク、ヒューストンの個展などを経て、さらに国際的に活発な制作活動を続ける作家をご紹介します展覧会です。

出品作品

本展覧会では、2000年に初発表し、国内外で高い評価を得た「マイ・グランドマザーズ」シリーズ全作品を、**新作も含めて一挙公開いたします。**現在も制作を続けるこのシリーズは、若い女性が思い描く50年後の自分の姿を作り上げたものです。背景、服装、表情にいたるまで、作家と被写体が対話を繰り返しながら生み出した作品には、想像した将来の姿についてのテキストを作品に付しており、現実と想像が織りなす濃密な時間が流れています。（全26点予定）



《AI》2003年 原美術館蔵 ©Yanagi Miwa

子ども相手のいんちき占いと陰口を叩かれてる。
この子たちの小遣いが目当てでも、暇つぶしでもない。
私が待っているのはただ一人の客、私の後継者。
過去にも未来にも無関心な彼女が、気まぐれに
崩れかけた扉を抜けて来てくれるのを待つだけ。
彼女に後を託したら、希望も後悔もない世界で静かに暮らそう。

しかしまあ、それまでにあと何人の退屈な人生を
語らなくてはならないのか。
この子たちの未来のつまらないこと。
母親そっくりの、不満の毎日に倦怠の上塗り。
それをわざわざ確かめにくるとはね。
幼い秘密、淡い期待、安い夢……もううんざり。
今日はあと五人でおしまいだ。
ああ、またこの子は。泣いたって仕方ないんだよ。

- 一、芸には日々励むべし
- 一、風流を尊ぶべし
- 一、客は一見、馴染みで隔てるべからず
- 一、客は一期一会で持て成すべし
- 一、客に説教すべからず
- 一、歳は日毎に己で決めるべし
- 一、精進すれば えずくろしからず
- 一、楽あれば楽あり 楽をもって養生とすべし

以上 心得相守り 和を尊んで営むべし



《GEISHA(AKIYO/MAI/HITOMI/NORIKO)》2002年 作家蔵 ©Yanagi Miwa



《YUKA》2000年 作家蔵
©Yanagi Miwa

トシをとったらどこかの温泉地でのんびり過ごしたいとずっと思ってた。
70過ぎてから湯布院に引っ越して、望み通りの気楽な数年を過ごしたけど
極楽のような風景を毎日見ているうちに、この箱庭を出て
どこか遠くへ行きたいと思うようになった。
思いが募って、ついに身内には何も言わずにロス行き飛行機に乗った。
今思えば私は湯布院で一度死んで、あの世からシャバに戻ったのかもね。

ひとりでぶらぶら小旅行を繰り返すうちに
今の彼氏（どこかのドラらしいけど）に会って
いきなりアメリカ横断、石油発掘なんて途方もない夢に付き合う事になった。
さすがに結婚は勘弁してくれって断ったけど、奴はまだ諦めてないね。
日本にいる子供や孫にはもう随分会ってない。
孫達なんて、いま会っても絶対わかんないね、お互いに。
でもこの前電話で、あたしはもう転生しちゃったって小学生の孫に言ったら、
婆ちゃん死んじゃったのって泣かれたわ。

この歯？ 去年ベガスで大当たりした記念品。
とにかく彼はひっきりなしのジョークで笑わせてくれる。奴が言うには、
私の大笑いは幸運の女神のホホエミだそうよ。

この10年で
多くの子達を引き取った。
新しい子を迎えに行くときは
必ず皆で旅をする。

八十路過ぎ幾山河超えるは難し
最果ての地にも我が子の在ると思えば



《MIWA》2001年 東京都写真美術館蔵 ©Yanagi Miwa



《HIROKO》2001年 東京都写真美術館蔵 ©Yanagi Miwa

どうも判っていないようね。
この旅行は遊びじゃなくて、出張なのよ。
世界中にいる奴隷達は、わたしのクライアントなの。
アナタがチャホヤされるのは、
あくまで「伝説の女王」の孫だから。
アナタはまだまだ半人前よ。そここのところをわきまなさい。

わたしがアナタくらいの頃にはね、
個人のセックスサービスは非合法。何の保障もなかったわ。
最近、アナタが注射一本で治した病気が昔は不治の病で、
たくさんの方が死んだのよ。
プロの女王を続けるために、おばあちゃんはいろんな差別や
悪法と長いこと闘って…ちょっと！ 聞いているの？！

わたしが築いたイズエに寝そべる、若い子の無自覚を見ていると
引退なんて出来ないわ。

「50年後のわたし。そうなるかどうかはわからないけど、
今はそうなるように願い、未来に喜びがあればいいと思います。」(やなぎみわ)

作家プロフィール

やなぎみわ

神戸生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。93年に京都で初個展。以後、96年より海外の展覧会にも参加。若い女性が自らの半世紀後の姿を演じる写真作品、「マイ・グランドマザーズ」シリーズ、実際の年配の女性が祖母の思い出を語るビデオ作品「グランド・ドーターズ」を制作。2004年、ドイツ・グッゲンハイム美術館にて個展。同年、丸亀市猪熊弦一郎美術館にて個展。少女と老女の物語をテーマにした写真と映像のシリーズ「フェアリー・テール」を、2005年、原美術館と大原美術館にて発表。2007年、ニューヨークのチェルシーアートミュージアムにて個展。

2005～2006年度 朝日新聞紙面審議委員

2006年度より 神戸芸術工科大学准教授



《SHIZUKA》2004年 作家蔵 ©Yanagi Miwa

次の私の肉体は、必ず私の手で作る。
そう決めていたけれど。
さていざ、なすべきかなさざるべきか。
たった今この手を、
止めるべきか止めざるべきか。

関連イベント

■対談 やなぎみわ×石内都 (写真家/第51回ヴェネツィア・ヴィエンナーレ参加)

日時：3月7日(土) 午後3時～5時 定員70名 参加費：500円

会場：東京都写真美術館 1階アトリエ

受付：当日10時より1階受付にて整理番号付き入場券を販売いたします。

開場：午後2時30分より、番号順入場。自由席。

■フロア・レクチャー

会期中の第2・第4金曜日午後2時より、展覧会担当学芸員による展示解説を行います。

展覧会チケットの半券(当日有効)をお持ちの上、2階展示室入り口にお集まりください。

開催概要

- 展覧会名 **やなぎみわ マイ・グランドマザーズ**
- 会期 2009年3月7日(土)～2009年5月10日(日)
- 会場 東京都写真美術館 2階展示室
〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
ホームページ www.syabi.com 電話 03-3280-0099
JR恵比寿駅東口より徒歩7分／東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分
- 開館時間 10:00～18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館30分前まで
- 休館日 月曜日(ただし月曜が祝日または振替休日の場合、その翌日)
- 観覧料 一般 800(640)円 学生 700(560)円 中高生・65歳以上 600(480)円
※()は20名以上の団体料金および東京都写真美術館友の会会員料金
※小学生以下、障害をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日に観覧する65歳以上は無料
- お問い合わせ先 東京都写真美術館事業企画課
＜展覧会担当＞電話 03-3280-0035
事業企画課長 笠原 美智子／丹羽 晴美／石田 留美子
＜広報担当＞電話 03-3280-0034
久代 明子 a.kushiro@syabi.com、米田 智子 t.yoneda@syabi.com

＜プレス用図版について＞

このリリースに掲載されている図版を、プレス掲載用にデータにてご用意しております。

ご希望の方は、上記広報担当までお問い合わせください。

※この展覧会は国立国際美術館 2009年6月20日～9月23日(予定)と共同開催します